

# 大豆の予想開花期と病害虫防除

- ◎今年の予想開花期は、平年より早まると予想されます。
- ◎開花期を確認し、適期に病害虫防除を実施しましょう。
- ◎梅雨明け以降の土壌乾燥による干ばつ害を防ぎましょう。

## 1 予想開花期

気温が高く推移した5月6半旬には種したほ場を中心に、開花期は平年より早まる見込です。

表 予想開花期（7月4日現在）

は種期	予想開花期(カッコ内は平年値)	
	エンレイ	里のほほえみ
5月25日	7月13日頃（7月19日頃）	7月15日頃
6月1日	7月20日頃（7月22日頃）	7月22日頃
6月5日	7月22日頃（7月25日頃）	7月24日頃
6月10日	7月26日頃（7月27日頃）	7月28日頃

※予想開花期は、今後の気象経過により前後することがあります。  
(開花期は、1花以上開花した株が、ほ場全体の4～5割に達した日です。)

## 2 病害虫防除

### (1) 基幹防除【紫斑病及び子実害虫】… 必ず実施

大豆の基幹防除は、以下に例示する2体系から選択し、必ず実施する。

なお、防除方法及び薬剤は、農業普及指導センターまたはJA営農センターに相談してください。

体系例	防除時期		
	開花期3週間後頃	開花期4週間後頃	9月上旬*
紫斑病防除1回体系	—	紫斑病+子実害虫	子実害虫(マメシクイガ)
紫斑病防除2回体系	紫斑病	紫斑病+子実害虫	子実害虫(マメシクイガ)

\*残効が長い薬剤を使用する場合は、8月第5半旬～9月第1半旬が散布適期

#### <防除上の留意点>

- ・莢に薬剤がよく付着するように、ていねいに散布する。
- ・周辺に他の作物がある場合は、飛散しないように注意する。
- ・使用薬剤の登録内容を確認し、使用基準を遵守する。

### ア 紫斑病

「アミスター20フロアブル」は開花期4週間後頃の1回散布で十分な効果が期待できる。  
その他の薬剤は2回散布する。

### イ マメシクイガ

薬剤散布適期は産卵盛期～ふ化盛期の9月上旬。前年に被害が発生したほ場等で多発生が予想される場合は、8月第6半旬と9月第2半旬の2回散布する。

なお、残効が長い薬剤を使用する場合は、8月第5半旬～9月第1半旬が散布適期で、多発生する場合でも1回の防除でよい。ただし、多発生時の防除時期は、残効が長い薬剤の中でも薬剤により異なるので注意する。

【適用情報】

農薬名	使用方法	希釈倍数・散布液量	適用病害虫・使用時期	使用回数等
アミスター20 フロアブル	散布	希釈倍数 2000～3000 倍 散布液量 100～300 リットル/10a	紫斑病 収穫7日前まで	2回以内
	無人ヘリコプターによる散布	希釈倍数 16～24 倍 散布液量 800 ミリットル/10a	紫斑病 収穫7日前まで	2回以内

※令和元年7月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。農薬の使用に際しては、必ず最新の登録内容を確認してください。

(2) その他害虫防除 … 発生状況を見て防除

アブラムシ類やハダニ類などは、害虫の発生状況を見て早めに防除する。

ウコンノメイガは、葉巻の発生初期が散布適期。葉の半分くらいまで巻いている葉が散見され始める時期に防除する。7月6半旬の畝1m当たりの平均葉巻数が22個以下では防除不要。



3 雑草対策

中耕・培土作業は、開花期前までに終了する。

また株間に雑草が残り、除草剤を散布する場合は、開花期前までに行う。

帰化アサガオ類はつる化する前に防除することが肝要である。薬剤散布や手取り除草で確実に防除する。

4 乾燥害対策 (開花期以降は特に注意)

干ばつによる根へのストレスは、莢数や粒数の減少、しわ粒、莢先熟等の発生要因となる。特に初作ほ場では、干ばつの影響を受けやすい状態にあるため注意する。

(1) 本暗きよが施工されているほ場

開花期以降は、基本的に暗きよを閉じ、土壌水分を適切に保つ。

ただし、降雨等により地下水位が急激に上昇する場合は速やかに暗きよ栓を開放する。

(2) うね間かん水実施のめやす

周囲明きよが整備済で、1日以内に地表水の排出が可能な排水条件が整ったほ場では、次により周囲明きよを活用したうね間かん水の実施が可能である。

時期：開花期以降に1週間程度降雨のない日が続き、大豆の上位葉が反転するようになった頃。  
 方法：ほ場に水が行き渡ったら水尻、暗きよ栓を開け、速やかに排水する。

※水口付近に長く水がたまると根腐れを引き起こしたり、立枯れ性病害の発生を助長するので注意してください。